

平和を思う



西中学校 3 年
今井 沙織さん

8 月 6 日に広島、9 日に長崎に原子爆弾が落とされた。一つの原子爆弾のせいで、たくさんの人々、町全体が一瞬のうちに消え去りました。今回、青少年ピースフォーラムに参加させてもらい、被爆者の方の講話を聞くことができました。被爆者の方が話す一言一言を頭で想像しながら聞いていると、体が震えるほど、苦しさや悲しさが伝わってきました。また、原爆の被害でぐちゃぐちゃになったガラスなどや、所々削られている像を見て、原爆の恐ろしさが目に染みました。被爆者の方が「これからの平和を守るのはあなた達です」と言っていました。確かにこれから絶対に戦争は起こってはいけないし、起こしてはいけないと思いました。なので、わたしは、いつまでも原爆の被害や怖さを忘れず、平和の大切さをこれからも受け継いでいきたいと思いました。そして、思いやりの心を持って生活していきたいと思っています。

世界平和「未来を変えたい」



東中学校 3 年
前島 康宏さん

「平和とはなんだろう」僕は一心にそのことを思いました。このピースフォーラムを通して、少しですが自分の考えを持つ事ができたと思います。各地の小中学生とともに、被爆者の方の講話を聞き、爆心地に近い被害地を実際に見たり感じたりしました。被爆者の方々は心に大きな傷を負い、その方の講話では、当時の悲慘さが体に「ひしひし」と伝わってきました。午前 11 時 2 分、真っ白い閃光(せんこう)が走り猛烈な爆風と熱線、それにより多くの被害を与えました。かすんだ太陽と辺り一面に広がっていた青空はうす暗くなりました。衣服が燃えて狂ったようにもがき苦しむ人、半身焼け焦げた人、首や手から黒い皮膚を垂れ下げている人など、非現実的だと思う事が現実起きていました。それを聞いた僕は、震えが止まりませんでした。なぜ原爆を落とした

のか、なぜ何の罪もない人々が殺されなければならなかったのか、今でも疑問が残ります。そんな思いもあり、僕は式典に参列して「二度と戦争を起こしてはいけない」と思いました。

今、日本に生まれ、世界唯一の被爆国に生まれてきました。だからこそ僕たちは、戦争、原爆の恐ろしさについて学び、それを地域の人や世界の人々に伝えていかなければならない大きな課題だと思っています。

原爆の過去はもう変えられませんが、今を生きている僕たちだからこそ、未来を変えられると思っています。これから大きくなるにつれて、平和についての考えを少しでも自分で見つけたいと思います。



「戦争をしない、させない、殺さない」



双葉中学校 3 年
池田 千華さん

「戦争をしない、させない、殺さない」、被爆者「恒成正敏」さんが、最後にわたしたちに向けた言葉でした。式典では、62 年前原爆により亡くなった人々に祈りをささげ、すべてを灰に変えた原爆の恐ろしさを痛感し、絶対に許してはいけないものだと思います。式典に参加した人は、国籍に関係なく、ただひたすら平和を願っていました。そして、長崎市内では式典に参加する代表の言葉が放送として流れています。ある人は足を止め、その言葉を聞いていました。わたしはその姿を見て、本当に核は存在してはいけないと、許しては、作ってはいけないと思いました。長崎の人たちは核の被害をしっかりと受け止めています。それに比べわたしたちはどのくらい考えたことがあったでしょうか。非核三原則が国としての考えならば、恒成さんが語った言葉こそ、わたしたちがこれから考え、そして世界へと伝えていくべきだと思います。